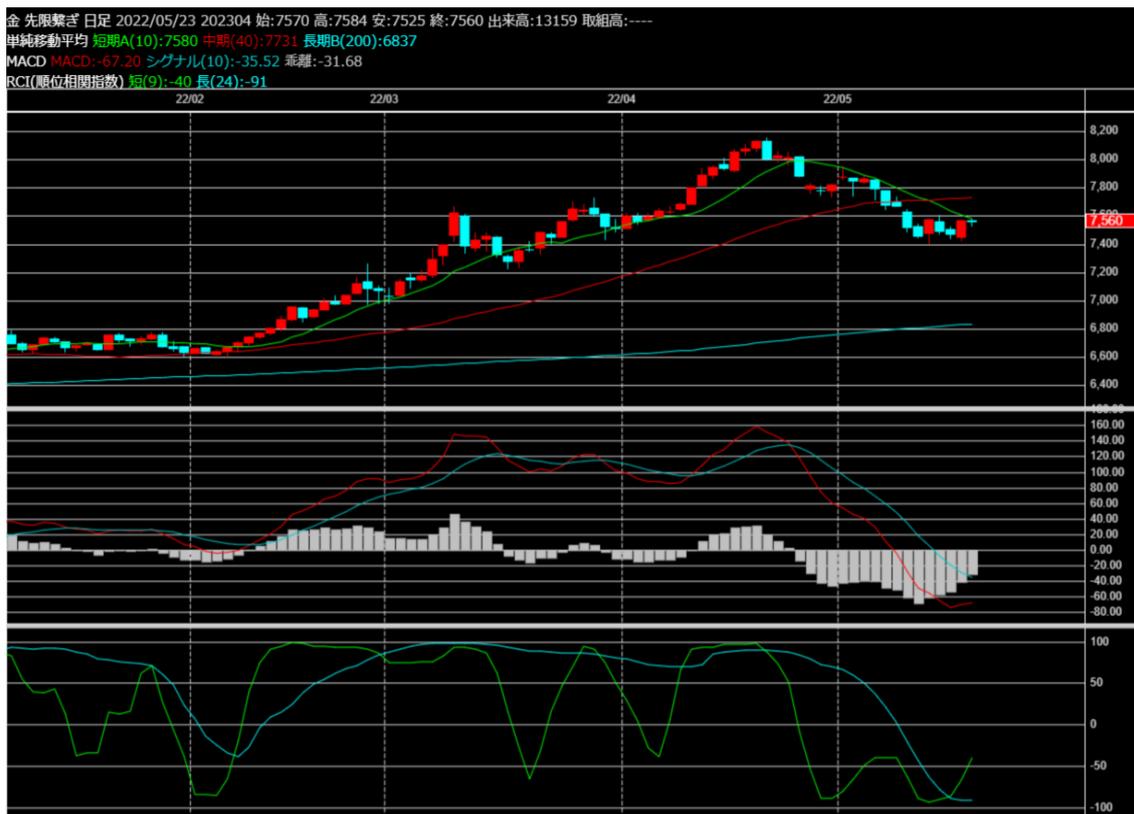


<金標準先物、一時的な自律反発の上昇に注意・・・>



(出所：オアシス)

パウエル FRB 議長はインフレが後退していることを示す「明確で納得できる」証拠が得られるまで当局は利上げを続けると発言し、また G7 の記者会見でイエレン財務長官は「ドルが上昇しているのは理解できる」と述べるなど、依然と金利高：ドル高のリスクは存在する。しかし世界的な株安の中で、S&P500 が今年の高値から 20% の下落を行い弱気相場入りの動きを見せ、逃避の債券買いを受けて米国長期金利の低下を受けて、ドル建て金価格は下げ渋りを見せている。

週末は中国人民銀行が住宅ローン向け金利の目安とされる最優遇貸出金利の 5 年物を引き下げると発表し、その下げ幅も 0.15% と市場予想を上回ったことで、景気刺激効果が見込める事から株価は反発している。特に金標準先物は、金利低下に伴う為替市場の円高：ドル安の動きを受け、下げ渋る値動きに変化している。そのため 7800 円から大きく下落した自律反発の域と見られ、7700 円に向けた戻りを示す値動きに注意したい。

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では **MACD** が下げ止まりながら、**シグナル** は下げ続けるなど、乖離幅が縮小している。また RCI でも **短期** が **長期** を上回りながら上昇を示し、**長期** は下げ止まった状態である。特に日足が **10 日移動平均線** の位置する **7580 円** を超える可能性が高いと思われ、目先 **40 日移動平均線** が位置する **7731 円** に向けた戻りには注目したい。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 951,700 円(2022 年 5 月 23 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 5 月 23 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>